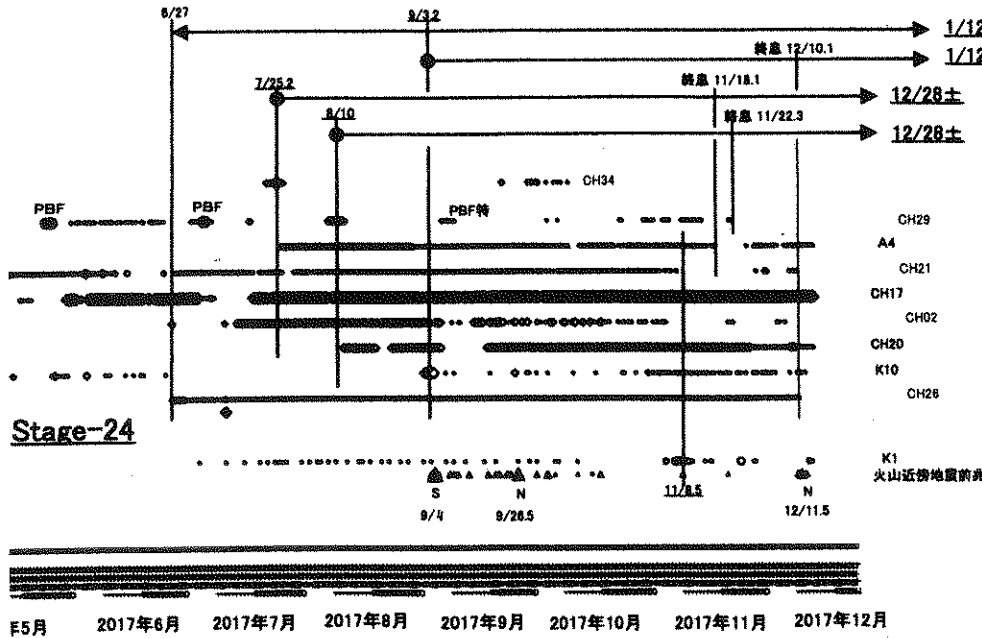


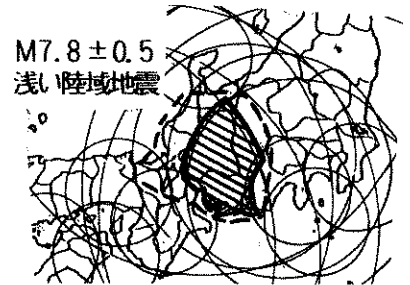
原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254  
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778長期継続特殊前兆続報 12/18±迄に前兆終息しない場合⇒12/23±の可能性否定決定  
次の早い時期を検討しますと⇒12/28±・1/12±の可能性有



12/23±の可能性については、12/12±前兆終息の可能性が計算されていました。長期継続したCH26は静穏化しましたが、本日まだ一部前兆継続中です。11/22の小ピーク認識を直前特異としていましたが、小極大の場合は12/18±迄前兆継続となります。12/18±迄に前兆が終息するか確認しないと断定は困難ですが、23日±の可能性は少々考え難くなっています。左図に次の可能性時期を検討した2種を記しました。12/28±と1/12±です。今後の前兆変化を観測して続報させて戴きます。



※下図はNo.1778前兆の初現(2008.7)から現在までの簡単な前兆出現状況図です。第24ステージの現在は▼印で示してあります。

明確なPBF前兆出現継続時間計から示唆される推定規模

PBF(振動型BF)出現継続時間計=PBF(h) 断層長=L(km) 規模=M  
経験式  $PBF(h) = L(km) \quad \text{Log } PBF = 0.5 M - 1.8$

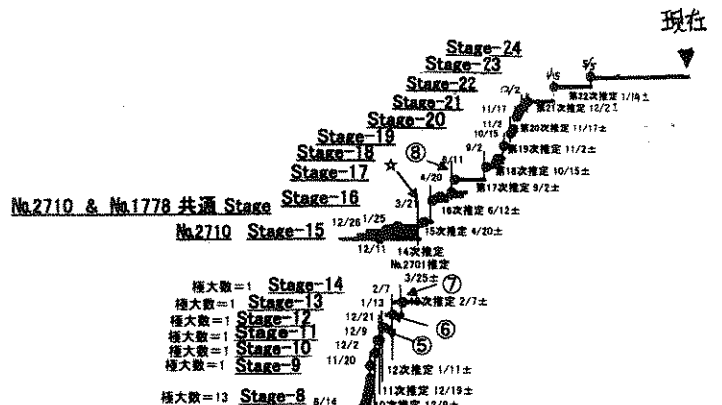
番号	出現日(出現観測装置)	出現継続時間計	推定規模(相当)
①	2011.09/04 (CH20)	約 100 時間	M7.8±0.5 相当
②	2012.06/27 (CH23/CH16)	約 120 時間	M7.8±0.5 相当
③	2013.01/14 (CH09)	約 140 時間	M7.9±0.5 相当
④	2013.11/11 (CH15)	約 120 時間	M7.8±0.5 相当
⑤	2015.12/21 (CH08振動型BF)	約 108 時間	M7.6±0.5 相当
⑥	2016.01/13 (CH32振動型BF)	約 114 時間	M7.7±0.5 相当
⑦	2016.02/07 (CH08振動型BF)	約 111 時間	M7.7±0.5 相当
⑧	2016.06/15 (CH26)	約 92 時間	M7.5±0.5 相当

出現PBF前兆からの推定規模 最大=M7.9±0.5 平均=M7.7±0.5

No.2710 = No.1778 と同一地震を示す別形態前兆群

☆印=前ステージ前兆群が示した日が次前兆の初現  
他は前ステージが示した日が次の前兆の最初の極大

●=極大 ———=前兆継続を表す



No.1778 長期継続前兆群出現形態